

## 平成30年度 10月定例記者会見 会見録

日時 平成30年10月18日（木）午後2時～2時25分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、台風24号の影響により、通行止めとなっている国道413号と市道についてでございます。現在、国道413号につきましては、土砂や倒木の撤去作業について完了したところですが、法面の損壊が激しく、復旧まで時間を要しますことから、地域の生活道路でございます市道を優先しまして、作業を進めさせてもらっております。地域の皆様やご利用の方には、大変ご不便をお掛けしておりますが、11月上旬には、改めまして、復旧に向けた方向性、今後のスケジュールをお知らせしていきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

次に、介護の日にちなみしましたイベントについてです。本市におきましては、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年までに、新たに約5千人の介護人材が必要になると見込んでおります。このため、本市では、介護の仕事の魅力を広く発信するためのPR冊子や動画を制作しまして、中学生や高校生の職場体験活動や、路線バス内の電子広告で活用するなど、様々な取組を行っております。11月8日（木）には、「みんなで支えよう 明日のさがみはらの介護」をテーマに、「さがみはら介護の日大会」を開催いたします。当日は、市内介護サービス事業所で勤務する若手職員の勤続表彰式のほか、介護施設等での心温まる写真の展示、最新福祉機器及び介護食品の展示等を行います。また、噺家の桂ひな太郎さんによる落語、そして司法書士の田中和亜さんによる講演会を通じて、成年後見人制度について分かりやすくお伝えしたいと思っております。11月24日（土）には、ハローワーク相模原と共催で介護や福祉に関心がある方を対象としました就職相談会を実施し、介護人材の確保に繋げてまいりたいと考えております。介護の仕事は、人や社会を支える重要な役割を担っており、誇りや、やりがいを持って取り組める職業でございます。その魅力を多くの方に知ってもらえる機会にしていきたいと思っております。また、11月7日（水）に、介護予防のための取組といたしまして、「いきいき百歳体操交流会」を市の総合体育館で開催いたします。本市で500人規模の大会を行うのは初めてとなります。市民の皆様が、いきいきとした生活を送れるよう、今後とも、健康づくり活動の充実を図ってまいりたいと思っております。

次に、相模原市の次期総合計画策定に向けた市民参画事業でございます。本市では、平成32年からスタートする次期総合計画の策定にあたりまして、市民参加に重点を置いた取組を積極的に進めさせていただいております。これまで、シンポジウムをはじめ、働く若者や、外国人市民との意見交換会を行ってきておりますが、10月24日（水）には、大野台こどもセンターで、「安心して子どもを生み育てられるまちづくり」をテーマに、「市政を語る会」を実施いたします。子育て中の保護者や、それを支援する団体の代表など、子育てに携わる方々と率直な意見交換ができればと思っております。さらに、10月30日（火）でございますが、働く女性を積極的に応援する取組を行っている企業との懇話会、11月には、市内の小学生と、「未来のさがみはら」についての意見交換会なども予定しております。今後も、様々な世代、また、立場の方々との対話を重ねながら、市民の皆様とともに次期総合計画を作りあげたいと考えております。

次に、11月7日（水）から名古屋市で開催される「メッセナゴヤ2018」への出展についてでございます。「メッセナゴヤ」は、日本全国から、様々な業種の企業や団体が出展をしております。多種多様な技術やサービスについてPRを行うイベントで、新たなビジネスチャンスを求めて毎年6万人以上が来場し、活発な交流が展開されていると伺っております。本市では、この「メッセナゴヤ」に初出展し、本市のシティプロモーションに生かしたいと考えております。本市の出展ブースでは、本市を紹介する動画の放映、それと都心からのアクセスの良さを案内するパネルの展示を行います。2027年にリニア中央新幹線が開通すると、本市と名古屋とは約60分で結ばれます。その名古屋で、リニアと圏央道が結節する唯一の都市である相模原市の立地優位性や、将来性などについて、多くの来場者に実感していただきたいと考えております。

次に、11月3日（土・祝）、緑区で行われる「小原宿本陣祭」についてです。25回目を迎える今回も、出初め太鼓や大名行列、火縄銃の「鉄砲隊」など、大迫力の演目が盛りだくさんとなっております。ぜひ、県内でただ一つ残る江戸時代の本陣と、情緒あふれる大名行列をお楽しみいただきたいと思っております。

最後に、11月11日（日）に、淵野辺公園で開催するイベントについてでございます。「相模原市農業まつり」は、市民の皆様、本市の農業を身近に感じていただく機会として、毎年開催しております。市内の生産農家による野菜の直売や、卵のつかみ取り、バター作り体験のほか、相模原産の農産物を使った料理など、本市自慢の農畜産物を堪能していただけます。また、銀河連邦

共和国からは、毎年、長い行列ができるサク共和国のりんごや、ノシロ共和国の特産品であります白神ねぎなどが販売されるほか、立科町の特産品ブースも出展されます。そのほか、工作やゲームなど、イベントが盛りだくさんの「親子ふれあい広場」や、吹奏楽やチアリーディングなどのパフォーマンスや、バザーなどが楽しめる「市民活動フェスタ」も同時開催いたします。様々な世代の方が楽しめるイベントとなっておりますので、是非、多くの皆様にご来場いただきたいと思います。私からは以上でございます。

(記者)

10月10日に、津久井や藤野地域を中心としたプレスツアーを実施していただきました。緑が多く自然豊かな土地で、その地に住んでいる方々のユニークな生き方に触れることができ、大変参考になりました。お礼を申し上げます。これからもそういう機会を設けていただけたらと思います。そのプレスツアーの時に、実際に移住した方から、藤野では移住される方のための住宅に空き家を有効活用し、移住がスムーズに出来ていると伺いました。移住の際に住宅にかかる費用というのは、大変負担になります。相模原市は若い方の定住を施策の一つとしている中で、この藤野で行っている施策を、市内の他の地域にも拡充する考えはありますか。

(市長)

空き家対策は全国の自治体で、その管理や活用について課題になっていると認識しております。本市も特定空き家等の課題について、協議会を設置し、対策を講じております。相模原市で活動してみたい、市内で働いてみたいという方、例えば、先程お話ししました介護人材も不足しておりますので、医療や福祉施設で働きたい、そういう方々に、住宅や施設を提供する際に空き家を利用する、そういった事を含め、具体的な利活用の方法を考えていきたいと思っております。本市では、不動産業界とも連携し、住居の斡旋などを調整するシステムもございますので、芸術家の方々などが、津久井方面、藤野地域だけではなく、市内全域で活動したいということであれば、空き家の活用方法を検討していきたいと思っております。

(記者)

相模総合補給廠に新たに移駐する米軍の旅団司令部のことですが、先日、司令部駐留に反対する団体の方が、移駐反対の要望をされていました。旅団司令部の駐留は、基地強化へ繋がることか

懸念されますが、基地の全面返還を目指す相模原市としてどのように捉えていますか。

(市長)

先月28日に国から、第38防空砲兵旅団司令部が相模総合補給廠に駐留するという情報提供が本市になされたわけですが、その後、今日まで具体的な内容についての説明はありません。相模総合補給廠は、日本国内における基地の兵站業務を担ってきたと承知しており、このため、今回のような司令部が置かれることに大きな違和感があります。国からは、補給廠に新たな装備の導入や施設整備を伴わないことから、基地の機能強化には当たらない、との見解が示されておりますが、司令部の任務や役割など、詳細が分からないことから、それに納得できる状況にはありません。国には内容等につきまして、市や市民に対して、丁寧に説明をしていただきたいと思っております。基地の返還は市是でございます。このような司令部の駐留によりまして、基地の返還が遠のくことがあってはならないと考えており、今月4日には、防衛大臣、外務大臣に対しまして、「司令部の任務や運用など、詳細を明らかにすること」、「司令部駐留が補給廠の機能強化、恒久化につながらないこと」、「補給廠周辺に騒音などの影響を及ぼすことのないこと」を強く要請させてもらったところでございます。また、近々、市米軍基地返還促進等市民協議会とともに、国・米軍・米国大使館への要請活動を近く行う予定となっており、そこでも改めてしっかりと要請をしてまいりたいと考えております。

(記者)

今、風疹が大流行しております。妊婦への感染を予防するには予防接種が最も有効な予防方法ですが、現在、相模原市の風疹予防接種への助成は、妊娠を希望している女性に対してのみです。抗体を持っていないとされる30代から50代の男性についても助成を行うなど、補助を拡充していく考えがあれば教えてください。

(市長)

今、風疹がかなり流行していると伺っております。妊娠初期の妊婦が風疹に感染すると、先天性疾患にかかる恐れがあることから、妊娠を希望している方はもちろん、抗体を持っていないとされる30代から50代の男性への助成も積極的に行う必要があると思っております。市としましては、

現在、12月補正予算の取りまとめを行っているところですが、その中で30代から50代の男性への助成の拡大について盛り込んでいきたいと考えております。

(財務部長)

風疹予防接種の対象者の拡大については、12月補正予算を含めて検討しております。

(記者)

具体的には、対象者を含め、どのような助成内容になりますか。

(梅沢副市長)

抗体を持っていない30歳から50歳の男性を中心に、助成を拡大していくということです。

(記者)

その30歳から50歳の男性への助成は、抗体検査から行うのですか。

(梅沢副市長)

抗体検査で陰性ということになれば、ワクチンを打っていただくという形で考えております。

(記者)

その助成は、風疹が流行している今シーズンのみの一時的な助成という形になるのでしょうか。

(梅沢副市長)

継続的に助成していく必要があると思っております。

(記者)

県下の保健所を持たない市町村、例えば厚木市などは、すでにそのレベルの助成を行っており、相模原市は少し遅れていると感じているのですが。

(梅沢副市長)

本市では、以前風疹が大流行した平成25年頃に、男性も含めて助成を行なっておりましたが、その翌年には助成人数が数名と激減したことで、対象者を見直し、予算計上を見送った経過があります。今年の大流行を受け、これから強化していこうと考えております。

(記者)

数日前から報道等されております、KYBによる免震装置等の検査データの改ざんの件ですが、

まだ調査中の点もあると思いますが、相模原市の中で、行政施設、民間施設の中で、不正なダンパーが使われているという確認はされていますか。

(市長)

国土交通省からの情報提供によりますと、市内の対象物件につきましては、件数等の把握をしており、対象となる建築物の中に、市の公共施設は含まれていないと承知をしております。対象となる建築物には民間施設も含まれることから、件数等の公表につきましては、県内の自治体間で情報共有と情報提供のあり方について協議を行っておりまして、その協議に基づき行っていきたいと思っております。施設が特定される情報については、風評被害等を考慮しまして、今現在は公表されていない状況でございます。こういう事案につきましては、市民が不安に感じますので、市といたしましても、そういう対象物件が出てくれば、構造安全性の検証を踏まえた是正指導をしっかりとしたいと思っております。

以 上